

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
神戸ブレイメン 動物専門学校	2012年3月27日	野上 耕一	〒651-0097 神戸市中央区布引町2丁目1-17 (電話) 078-231-0121																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 野上学園	2007年9月20日	野上 耕一	〒770-0021 徳島市佐古一番町5-4 (電話) 088-652-5899																				
分野	認定課程名	認定学科名	専任士	高度専任士																			
文化・教養	文化教養専門課程	ペットビジネス学科 ドッグトレーナーコース	平成26年文部科学省 告示第6号	-																			
学科の目的	自ら学ぶ意欲と実践力のある人材の育成を行うことで、動物業界全体の資質向上を目指す																						
認定年月日	平成 26年 3月 31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	2400時間	704時間	時間	1696時間	時間	時間																
単位時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
80人	104人	0人	6人	4人	10人																		
学期制度	■1学期:4月1日から8月1日 ■2学期:9月1日から12月31日 ■3学期:1月1日から3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目の受講時数が授業時間の3分の2以上出席し、学科・実技試験で評価。																		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月20日から8月31日 ■冬季:12月20日から1月7日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	各科目について出席時数が授業時数の3分の2に達しており、担当教員の成績評価を元に学校長が修了の認定をする。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応 面談、自宅訪問等			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 トリミング、訓練競技会 ドッグマラソンボランティア等 ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) トリミングサロン、動物病院、訓練施設、ペットショップ等 ■就職指導内容 履歴書添削、模擬面接、インターンシップ先の紹介等 ■卒業生数 : 50 人 ■就職希望者数 : 49 人 ■就職者数 : 47 人 ■就職率 : 96 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94 % ■その他 ・進学者数: 1人 (平成 28 年度卒業者に関する 2017年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C級グルーマー</td> <td>③</td> <td>50名</td> <td>50名</td> </tr> <tr> <td>B級プロフェッショナル ドッグシッター</td> <td>③</td> <td>15名</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③</td> <td>7名</td> <td>7名</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	C級グルーマー	③	50名	50名	B級プロフェッショナル ドッグシッター	③	15名	15名		③	7名	7名
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
C級グルーマー	③	50名	50名																				
B級プロフェッショナル ドッグシッター	③	15名	15名																				
	③	7名	7名																				
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0 % 平成28年4月1日時点において、在学者102名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者102名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 中途退学者 なし ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 長期間欠席者への面談、分割制度の拡充や学費の納付延納等																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年度給付実績なし																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://www.kba.ac.jp/index.html">http://www.kba.ac.jp/index.html</a>																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界又は職種に相当年数携わり、実務に関する知識・技術について知見のある企業や施設等の管理者又は職員と連携し、講義及び実習を通じて自ら学ぶ意欲と実践力のある学生を育成することを目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学園理事会、監事、評議員会とは別に、独立して存在するものとする。教育課程編成委員会規則に基づき、会議を開催し、学生の育成に必要なカリキュラムやその他必要事項の取り決めを行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
野上 耕一	神戸ブレーメン動物専門学校 校長	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	
野上 和子	学校法人野上学園 理事	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	
中 徹	NPO法人日本社会福祉愛犬協会 理事	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	①
貴志 泰則	株式会社貴志商店 代表取締役社長	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	③
永木 ユミ子	ローズサマンサ 代表	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	③
小松 敏之	いぬのがっこうKOMATU 代表	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	③
軽部 真紀	かるべ動物病院 院長	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年二回以上の開催 時期は、春季と秋季を基本とする。

(開催日時)

第1回 平成28年4月5日 14:00～16:00

第2回 平成28年11月29日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会での提言をもとに、新たな設備の導入、カリキュラムの一部変更、新カリキュラムの導入などを行っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

現場で使用される機材等の扱い方や、現場で必要とされる知識・技術の学習の為、積極的に企業(動物病院、訓練施設、トリミング美容室、牧場など)へのインターンシップをカリキュラムに導入

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実際の現場で求められるスピードや技術、コミュニケーション能力を現役の講師による直接指導で実践的な技術を習得する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
グルーミング学・グルーミング実習	校内で行われている実習のステップアップとして、実際の現場で求められるスピードや技術を現役の講師によるモデルグルーミングの講義や、実習指導で実践的な技術を習得する。	DOG PORT
ドッグトレーニング理論	実際の現場で求められるコミュニケーション能力、プログラムの組み立て方、保定技術を現役の講師による講義でまず理論を習得し、実習での直接指導を行う為の基礎作りとする。	animal assist soleil
動物看護学	人と動物の関係がより一層深まりつつある近年、動物病院における動物看護師・動物福祉士の重要性が高まっている。また、動物に関わる多くの職業において専門知識が求められている。	西神戸スマイル動物病院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 教員各々の技術、知識向上の為、提携企業への研修、講師のセミナーを定期的に開催し、専門分野に関する展覧会・競技会への参加を積極的に行う。

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 ・国内外の展覧会、競技会への参加  
 ・動物愛護及び管理に関する法律に関連した研修会への参加  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 ・フリーアナウンサー講師による、話し方セミナーの開催

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 ・提携する海外の大学(モアパークカレッジ/アメリカ)での研修、動物保護施設、動物病院、サロン視察  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 ・専修学校各種学校連合会主催の教職員セミナーへの参加 等

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参考させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 神戸ブルーメン動物専門学校自己評価報告書に基づき、教職員の意見聴取及び学校施設等の視察を行い、学校が設定した評価項目の達成及び取組み状況を点検する。また自己評価をもとに、その内容において分析・考察を行い、今後の課題と改善策を示し、教育活動・学校運営の質向上に役立てる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。  
 (3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 評価結果は、学校関係者評価委員会において評価項目の達成度についての点検を行う。委員会での点検をもとに各事項についての分析・考察を行い、今後の課題と改善策を示した報告書を纏め、HP等で公開し、教育活動・学校運営の質向上をはかる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
貴志 泰則	株式会社貴志商店 代表取締役	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	企業役員
永木 ユミ子	ローズサマンサ オーナー	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	企業役員
矢野 章太	やの犬 訓練所 代表	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	卒業生
服部 有香	ブルーメン愛犬クリエイティブ専門学校 卒業生	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 (ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <http://www.kba.ac.jp/index.html>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、企業等関係者に情報提供することで相互理解が促され、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につながる、との視点から情報提供を進めていく。また、情報提供等に当たっては、学生や保護者、関係業界等が求める情報の内容を十分把握し、求めに応じた情報を適切

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。  
 (3) 情報提供方法  
 URL: <http://www.kba.ac.jp/index.html>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ペットビジネス学科 ドッグトレーナーコース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
○			グルーミング学Ⅰ	犬・猫の抱き方・扱い方、シャンプー、カット方等、基本的なグルーミング法学科	1通	30		○			○	○		○	
○			グルーミング実習Ⅰ	グルーミング学Ⅰを基に実習を行う	1通 2通	390			○		○	○	○	○	
○			動物形態機能学	比較解剖学・血液学・免疫学・携帯機能等が含まれる	1通	150		○			○	○	○		
○			動物病理学	動物病理学に関する概論	1通	30		○			○	○	○		
○			動物疾病看護学	内科疾患・外科疾患・皮膚疾患・眼科疾患・歯科疾患等	1通	150		○			○	○	○		
○			動物薬理学	動物薬理学、薬物学	1通	30		○			○	○	○		
○			動物感染症学	内部寄生虫・外部寄生虫・微生物	1通	60		○			○	○	○		
○			病原体衛生管理	概論・ワクチン等	1通	30		○			○	○	○		
○			動物健康管理	飼育管理、日常のお手入れ	1前	15		○			○	○	○		
○			動物栄養学	栄養素・特別療法食・ペットフード市場	1通	75		○			○	○	○		
○			動物医療関連法規	獣医師法・狂犬病予防法・動愛法・鳥獣保護法・薬物関連法規・家畜伝染病・予防法・その他関連法規	1通	30		○			○	○	○		
○			公衆衛生学	人獣共通感染症・滅菌・消毒・動物防疫学	1通	30		○			○	○	○		
○			動物繁殖学	概論、分娩・新生児、遺伝学	1後	15		○			○	○	○		
○			動物人間関係学	HAB、AAA、AAT、AAEなどの概論	1通	30		○			○	○	○		
○			動物行動学	犬学・猫学、行動の意義と機構、しつけ・トレーニング・問題行動	1通	60		○			○	○	○		
○			動物福祉論	獣医療倫理、動物福祉	1通	30		○			○	○	○		
○			飼育管理学	エキゾチックアニマル、実験動物、産業動物、野生動物、展示動物	1通	60		○			○	○	○		
○			経営学・ビジネススキル	社会人として必要とされる経営・一般教養や就職活動に必要なスキルを習得する	1後 2前	30		○			○	○	○		
○			ドッグトレーニング理論Ⅰ	ヒトと犬が共生していくに必要な方法を習得する。また動物行動学をもとに具体的なトレーニング方法の組み立て方を学ぶ。	1通	30		○			○	○	○	○	
○			服従訓練Ⅰ	ドッグトレーニングを実践的に学び、具体的な行動修正方を習得する。	1通	90		△		○	○	○	○		
○			アジリティⅠ	ドッグスポーツであるアジリティ競技の基礎を学び、運動能力の向上を目指す。	1通	45		△		○	○	○	○		
○			動物飼育実習Ⅰ	コンパニオンアニマルの適切な飼育法、ドッグトレーニング	2通	45		△		○	○	○	○		
○			動物飼育実習Ⅱ	動物飼育に関する技術の実践と応用	2通	90		△		○	○	○	○		
○			グルーミング学Ⅱ	グルーミング技術の応用に関する法学科	2前	15		○			○	○	○	○	

○		ボランティア学	動物愛護センターや民間保護団体を通じ動物のお手入れやしつけの活動を行う。また周辺地域の清掃活動を定期的に行い社会貢献の意味を学習する	2 前	15		○		△	○		○		
○		ドッグトレーニング 理論 II	ドッグトレーニング 理論 I の応用	2 通	60		○			○		○		○
○		服従訓練 II	服従訓練 I の応用	2 通	330		△			○	○		○	
○		アジリティ II	アジリティ I の応用	2 通	75		△			○	○		○	
○		総合トレーニング 実習 I	トレーニングの組み立てからクライアント教育までを総合的に組み立て、実践する	2 通	180		△			○	○		○	○
○		総合トレーニング 実習 II	総合トレーニング 実習 I の応用	2 通	180		△			○	○		○	○
合計				30科目		2400単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業条件：各科目について出席時数が授業時数の3分の2に達しており、担当教員の成績評価を元に学校長が修了の認定をする。		1学年の学期区分	3期
		1学期の授業期間	15週